

10/28(土)～11/12(日) ファーム・インさぎ山 界隈 さいたま市緑区上野田 282



①さぎ山記念公園・さぎ山記念館  
さいたま市緑区大字南部領地 359 (上野田 362-1) TEL.048-878-3656

"見沼・さぎ山交流ひろば秋フェス 2017" 参加  
B ワークショップ

10/28(土)・29(日) 10:00～15:00 さぎ山記念公園  
・小さな土器を焼く 実演と販売 渋田廣文、ほか  
・野菜販売 ファーム・インさぎ山 萩原哲哉

シンポジウム：「農のある暮らし」  
11/11(土) 14:00～ さぎ山記念館／学習室

パネラー：  
・加藤 稔男 クリエイティブ・ディレクター  
・染谷 滋 元群馬県立館林美術館館長  
・萩原 さとみ ファーム・インさぎ山代表  
・安部 大雅 彫刻家(司会)



④久楽里

さいたま市緑区寺山 1056

A 化石樹 紙漉ワークショップ  
10/30(月)～11/9(木)  
柳井嗣雄 巨大な紙漉に挑戦  
\*協力者求む



⑤農樂里

さいたま市緑区上野田 76



アートミーティング  
11/12(日) 16:00～  
「メタセコイアをめぐって」  
森山哲和、柳井嗣雄、安部大雅、  
長谷川千賀子、加藤学、神宮寺未希、  
吉田富久一他 全体会議



②諏訪野

さいたま市緑区上野田 282



展示 11/10(金)～12(日)

安部大雅、加藤学、神宮寺未希、長谷川千賀子、  
坂野巖、吉川信雄、吉田富久一

ワークショップ (参加・体験・協働方式)

- B 小さな土器を焼く 実演と販売 11/10(金)～12(日) 渋田廣文 ほか
- C 炭窯設置と炭焼き 10/30(月)～11/9(木) 萩原哲哉、吉田富久一、ほか
- D 粉殻焼炭焼き 11/7(水)～9(金) 長谷川千賀子、吉田富久一、渋田廣文、ほか
- E 鍛冶屋の槌音一キコリと野鍛冶 11/11(土)～12(日) 加藤学、神宮寺未希
- F さぎ山でのピザ焼き 11/11(土)～12(日) 安部大雅
- G ふしぎな楽器"鼻笛"演奏と販売 11/11(土)～12(日) 坂野巖と森の民

ライブ・パフォーマンス 11/11(土) 夕刻 ジャパン・アミニズム

食の芸術祭 11/11(土) 夕刻 ファーム・インさぎ山



## アクセス

JR 大宮駅からバス  
①ファーム・インさぎ山 諏訪野：①大宮駅 東口7番乗降場 乗車30分 「浦和学院高校入り口」下車徒歩3分、「浦和学院高校入り口」下車徒歩7分 ②同「さいたま東営業所行」乗車28分 「締切橋」下車：見沼自然公園内を横断し徒歩10分

③さぎ山記念館：同、①乗車28分 「さぎ山記念館入り口」下車徒歩3分 ②「さいたま東営業所行」で「車庫前」下車徒歩7分

JR 東浦和駅からバス  
国際興業バス「さいたま東営業所行」  
乗車25分 「浦和学院高校入り口」「代山」「さぎ山記念館入口」下車 同上

④お車でご来場の方  
会場の駐車台数に限りがございます。  
できるだけ公共交通機関のご利用をお  
薦めいたします。

近郊の公園駐車場ご利用の場合 ①見沼自然公園P：園内を横断し徒歩10分

②さぎ山記念公園P：園内を横断し徒歩5分、但しさぎ山記念公園は午後5時

で完全閉門しますのでご注意願います

ファーム・インさぎ山20周年記念

# “野良の藝術”さぎ山の現場 2017

10/28 sat ～ 11/12 sun 日の出～日の入

さいたま市緑区上野田 ファーム・インさぎ山 界隈 (裏面地図参照)

"見沼・さぎ山交流ひろば秋フェス 2017" 参加

10/28 sat・29 sun 10:00～15:00 さぎ山記念公園  
ワークショップ参加を皮切りに本企画は始まります

公開制作：10/30 mon ～ 11/9 fri 各会場

公開展示：11/10 fri ～ 11/12 sun 諏訪野前、深井家長屋門

アーティスト・トーク：11/10 fri 13:00～ 各会場

シンポジウム「農のある暮らし」：11/11 sat 14:00～ さぎ山記念館

ライブ・パフォーマンス：11/11 sat 夕暮れより 諏訪野・萩庵前広場

食の文化祭：11/11 sat 夕暮れより 諏訪野・萩庵前広場 (参加費 500円)

アートミーティング「メタセコイアをめぐって」：11/12 sun 16:00～ 農樂里

ほか、ワークショップ多数



## 農のある暮らし



後援：さいたま市

さいたま美術  
創発

さいたま創発プロジェクト参加

SOCIAL ART  
ulus

社会芸術/ユニット・ウルス

主催：ファーム・インさぎ山 〒336-0977 さいたま市緑区上野田 282 048-878-0459 代表：萩原 さとみ

共催/実行：社会芸術/ユニット・ウルス 実行委員長：柳井嗣雄 090-5580-7857 /事務局：吉田富久一 090-8301-5811

企画：社会芸術/プランニングチーム 〒206-0033 多摩市落合 2-7-1-205 pwd4tut2ev@me.point.ne.jp 代表：吉田富久一

H.P. : <http://artngo16.wixsite.com/socialart>

# art works



安部 大雅 Hiromasa Abe

1974年生まれ さいたま市出身 木更津市在住  
1996年～2004年 イタリアのカッラーラで彫刻を学ぶ。  
日本美術家連盟・日本建築美術工芸協会 会員

「温故知新」とは何かと考える  
博物館に見る古代人の遺物は衣食住に密着したひらめきに溢れている  
現代人が時間短縮を重視したばかりに置き去りにしてきた魅力が詰まっている。現代人である我々があえて時間をかけて古代人の手法を辿りその魅力を細くじて本当に新しい創造ができるかもしれない  
多くの優れた発明はそうして抽出した過去のエッセンスから生まれたのではないか。「農とアート」＝「温故知新」なのかもしれない。

日本庭園協会埼玉県支部  
Nippon teien kyokai Saitamaken shibu

2001年日本庭園協会の埼玉県支部として発足。埼玉県立いすみ高等学校において、生徒と共に研修、創作活動を続け、2005年に終了。  
2016年浦和おかわり芸術祭に参加。埼玉県を中心とした、意欲的な庭師グループ。

祈り

私は自然の中に神が宿ると漠然と考えている。年月を重ねた木々には、その風貌とともに靈的な力を感じる。巨石には、石そのものを神化し、崇拝する事例もある。今回のテーマである農が、食と人を大地に結びつけるものであれば、自然崇拝が日本人の祈りでもまた、人を大地に結びつけるものであろう。どのようなカタチで人と大地が結びついてきたのであろうか。日本庭園協会埼玉県支部メンバーによる造形研究所の森山哲也が加わり、縄文の時より連續と続く自然崇拝による日本の祈りのカタチを表現する。

加藤 学 Manabu Kato

東京造形大学デザインII類を卒業後、京浜島の造作家具工場に務め、木工の基礎技術を修得。その後独立を経て、芸大講師であった叔父の営むデザイン工事所に勤務、設計施工を担当。6年前より東京家政大学造形表現学科にて木工家具デザインと制作方法の指導にあたる。

神宮寺 未希 Miki Jingushi

1991年 さいたま市生まれ  
2014年 東京家政大学 造形表現学科卒業

ヤコリと野鍛冶

農家の片隅には籠（ふいご）があり、かけた簞や壊れた道具を直して使っていた。昔はそんな家と村に何軒かあった。刀鍛冶、包丁鍛冶、挽み鍛冶、道具鍛冶などに対し、簞（すき）や簞などの農具を作る鍛冶を野鍛冶とい。循環型の社会を考えとき「直せるものを作る」立場が、モノづくりの一一番大切なことだと思う。

坂野 嶽 Iwao Sakano

1990年より2000年までアメリカ、オハイオ州にて絵画と陶芸を行う。

2000年より舞台美術、イベント装飾、店舗装飾の制作会社勤務後、広告代理店勤務にて企画制作・運営・プロモーションを行う。  
2011年より自然保護を物語ると音楽の観点から広める活動を「森の民」という団体立ち上げを行う。

地元の自然素材を使用した明神型鳥居の制作

大宮氷川神社の境内は見沼（江戸時代中期まで存在した広大な沼）の畔に建ち、もとは見沼の水神を祀っていたと考えられています。  
日本の農業と密接な関係である道の鳥居を、見沼に残り守られている自然素材を敬う気持ちで表現したいと思っています。

